

シュタイナーの湿布療法 (その4-2)

—ハーブティー(ヒメウイキョウ, ニガヨモギ, カモミール)を使った, 湿-熱湿布—

伊藤 良子

以下は「Monika Fingado(2001): Therapeutische Wickel und Kompressen, Natura Verlag.」(『モニカ・フィンガド(2001): 湿布療法 —イタ・ヴェーグマン・クリニックのハンドブックより—, ナチュラ出版)』より, 著者の許諾を得て一部を訳出したものである。

V. ヒメウイキョウ茶

(Kümmel-tee ; Carum carvi)

による, 腹部湿布または, 腹部巻き湿布

1) 作用

ヒメウイキョウの種は, 純粋な精油成分と油脂分に富んだオイル, 樹脂, クマリン (Cumarine) を含有する。温める, 緊張緩和, 鼓腸軽減作用, 消化促進作用を持つ。

2) 適応

- ・鼓腸 (Meteorismus)
- ・食後の腹満感
- ・胃腸の痙攣

この湿布は食後, もしくは, 症状発現時に行う。

VI. ニガヨモギ茶

(Wermut ; Artemisia absinthium)

の腹部湿布

1) 作用

ニガヨモギは, 非常に多くの苦味素を含有し, そのことによって, 強い収斂作用を持つ。胆汁

分泌を促進し, 消化を促進する。

2) 適応

- ・消化不良
- ・食後の腹満感や, 嘔気
- ・腸の消化・分泌作用の促進, 特に, 胆嚢・すい臓の分泌

この湿布はできる限り, 昼食直後に行う。

VII. ニガヨモギとカモミール茶

(Wermut & Kmillen ; Artemisia absinthium & Matricaria chamomilla) の腹部湿布

2) 適応

適応は, ニガヨモギ湿布と同様である。ここでは, 活性化し, 強壯的なニガヨモギの作用に, 温め, 緊張を緩和するカモミールの作用が加えられることになる。

参考文献

- 1) 伊藤良子 (2003): シュタイナーの人間観に基づいた湿布療法の基礎知識とその一例としての足浴両方の紹介, 京都市立看護短期大学紀要, 28号。
- 2) 伊藤良子 (2004): シュタイナーの湿布療法 (その2) —オイルクロス(精油を滲み込ませた布)を使った湿布療法の基本技術とその処方—, 京都市立看護短期大学紀要, 29号。
- 3) 伊藤良子 (2005): シュタイナーの湿布療法 (その3) —湿-熱湿布・湿-温湿布療法の

必要物品とその基本的手順—, 京都市立看護短期大学紀要, 30号.

- 4) 伊藤良子 (2005): シュタイナーの湿布療法 (その4) —ハーブティー (スギナ, カモミール, 西洋ノコギリソウ) を使った, 湿—熱 (温) 湿布—, 京都市立看護短期大学紀要, 30号.
- 5) 伊藤良子 (2006): シュタイナーの湿布療法 (その5) —ユーカリオイルを使った, オイル湿布 (湿—熱湿布) —, 京都市立看護短期大学紀要, 31号.
- 6) 伊藤良子 (2006): シュタイナーの湿布療法 (その6) —からし湿布—, 京都市立看護短期大学紀要, 31号.
- 7) 伊藤良子 (2006): シュタイナーの湿布療法 (その7) —生姜湿布—, 京都市立看護短期大学紀要, 31号.